



る商工公會の賦課金を納めまし  
よう」と提議すると、委員養成  
といふ決議もあつた。又某組合  
長は「今度は商工公會さんにな  
つかり御厄介になつた我々業者  
とこんな關係があるとは思はな  
かつた今後は何事も御相談にま  
いりませうとよろしくしたのみま  
すよ」といふやうに他人が一掃  
親戚になつたやうなことを云ふ  
者もある。こんな處にも笑へな  
い公會の業務性格の片面がある  
然し業者はそれだけでは満足し  
ない。物は出るか?どれくらい  
出るか?といふ計數的打算視念  
が興をあげて来た。此點につい  
ては商工公會として確約出来な  
いので市公署と打合せしその協  
力によつて必要物資を重點的に  
配給しようといふことに決定し  
たので、公會に於て免稅市民食  
堂設立要綱をつくり市經濟委員  
會の認可を得て具體的實施にと  
りかゝつた。先づ第一に適格者  
であるが、

らいつても獨立組合が必要であ  
るといふところから、「哈爾濱  
免稅市民食堂組合」といふ任意  
組合を設立したのである。この  
組合設立について現在の商工公  
會組合指導方針から云へば、逆  
行する感がないでもない。しか  
し組合の指導も整理統合もその  
存立の價値を他に決定する  
ことは出来ない。組合が物資配  
給の單なるメカニスムだけなら  
ば問題は無いのであるが、決  
展の中にある。直結事業體をも  
經營部指導第三四號

各種統制價格 (自九月十六日)
一、麻袋賣入價格...
二、麻袋賣入價格...
三、國內新製...
四、石炭...
五、石炭...
六、石炭...
七、石炭...
八、石炭...
九、石炭...
十、石炭...

各種統制價格 (自九月十六日)
一、羊毛類賣入及賣出價格...
二、國內新製...
三、國內新製...
四、國內新製...
五、國內新製...
六、國內新製...
七、國內新製...
八、國內新製...
九、國內新製...
十、國內新製...

法規拔萃 (自九月十六日)
價格等臨時措置法施行規則第  
十條第六號ノ規定ニ該當スル  
物品指定  
滿洲生活必需品株式會社法中  
改正

Table with multiple columns listing various goods and their prices, including items like '石炭' (coal), '穀類' (grains), and '油類' (oils).

- 一、鹽乾魚ノ販賣價格改正及追加
二、實地期日 康德十一年九月十六日
三、販賣價格及適用地域中改正及追加
四、配合飼料ノ卸賣價格
五、角砂糖ノ販賣價格廢止
六、鑽石ノ販賣價格
七、獸毛類加工品買入及賣渡價格
八、獸骨及膠收買並販賣價格
九、膠及骨粉收買並販賣價格
十、穀類ノ販賣價格
十一、獨逸製藥藥品ノ協定價格

解散
滿洲木工業統制組合解散
電球供給統制規則第一條ノ規定ニ依ル自熱電球指定
普通煉瓦製造事業組合設立
射倂行爲取締規則外十四治安部令廢止
農業藥劑ノ統制
自動車代用燃料使用裝置ノ種類型式指定
康德十一年經濟部佈告第一六四號貿易統制法第四條ノ規定ニ依リ輸出及輸入ヲ爲シ得ベキ者指定ノ件中改正
(哈爾濱市)日滿製粉株式會社
(哈爾濱市)日滿製糖株式會社
(哈爾濱市)日滿製油株式會社
(哈爾濱市)日滿製麵株式會社
(哈爾濱市)日滿製粉株式會社
(哈爾濱市)日滿製糖株式會社
(哈爾濱市)日滿製油株式會社
(哈爾濱市)日滿製麵株式會社

臨時資金統制法令改正

臨時資金統制法令改正趣旨

先ツ(一)金融統制ノ高度ニ計畫化シテ... 臨時資金統制ノ運用ヲ圖ラントスル... 臨時資金統制ノ運用ヲ圖ラントスル...

檢討ヲ加ヘテ統制シ得ルコトトシテ... (一) 諸報告書類ノ廢止... (二) 申請書様式ノ簡略化... (三) 申請書様式ノ簡略化...

最近物動及勞務動員計畫ノ一體化等諸種ノ綜合計畫強化ニ關スル措置ガ執ラレテキルガ之等措置ハ時局ノ緊迫化ニ伴ヒ我國經濟力ノ親邦戰爭目的達成寄與...

ノ爲ノ計畫的總動員態勢強化ガ如何ニ要請サレテキルカヲ示スモノデアル。然ルニ獨リ金融方面ニ於テ舊體依然トシテ各企業ノ資金所與ノ度毎ニ金融機關ヨリ資金ヲ放出セシムル統制方式ヲ執ルナラバ勞務物資ノ計畫的運用ヲ阻

### 二、改正法令

勅令第三百三號

(康徳十一年十一月六日)

臨時資金統制法中改正ノ件

臨時資金統制法中左ノ通改正ス

一 第二條及第四條ノ二中「金融機關」ヲ「金融事業ヲ營ム者」ニ改ム

二 第四條中「會社」ヲ「會社、會社ニ非サル法人」ニシテ經濟部大臣ノ指定スルモノヲ含ム以下同ジ)、「資本」ヲ「資本」出資ノ總額ヲ含ム以下同ジ)、「株金」ヲ「株金」出資ノ金ヲ含ム以下同ジ)、「利益」ヲ「利益」(剰餘金ヲ含ム以下同ジ)ニ改ム

三 第四條ノ二中「募集」ヲ「社債ノ募集」ニ改ム又ハ出資金ヲ制ル

四 第五條ノ二中「利益金」ヲ「利益金(剰餘金ヲ含ム以下同ジ)」ニ改ム

五 第五條ノ三「預金」ノ受入又ハ金銀ノ貸出ヲ業トスル者」ヲ「金融事業ヲ營ム者」ニ改ム

六 第五條ノ四「左ノ如ク改ム

第五條ノ四 經濟部大臣必要アリト認ムルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ土

地其ノ他ノモノノ讓渡代金補償金其ノ他ノ金銀債權」ニシテ經濟部大臣ノ定ムルモノヲ付支拂ハレタル金銀ノ處分又ハ決済ノ方法ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

七 第六條ノ左ノ一項ヲ加フ

經濟部大臣ノ指定スル會社ニ非ザル法人ノ設立ニ付主管官署命令又ハ許可若ハ認可ヲ爲サントスルトキ亦前項ニ同ジ

八 第七條ノ左ノ如ク改ム

第七條 經濟部大臣ハ資金ノ狀況ヲ調査スル爲ニ必要アリト認ムルトキハ左ニ掲グル事項ニ關シ關係者ヨリ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏若ハ經濟部大臣ノ委嘱シタル者ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿、書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

一 資金ノ供給及移動ニ關スル事項

二 有價證券ニ關スル事項

三 國際收支ニ關スル事項

四 事業ノ資金計畫ニ關スル事項

五 事業ニ屬スル設備ノ新設擴張又ハ改良ニ關スル事項

六 會社ノ資産、負債及損益ノ内容利益金ノ處分其ノ他經理ニ關スル事項

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏又ハ經濟部大臣ノ委嘱ヲ受ケタル者ハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶スベシ

第一項ノ場合ニ於テ委嘱ヲ受ケ當該事務ニ從事スル者ハ之ヲ公務員ト看做ス

九 第七條ノ二ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第七條ノ三 經濟部大臣必要アリト認ムルトキハ本法ニ基ク權限ノ一部ヲ總省長、省長、又ハ新京特別市長ニ委任スルコトヲ得

總省長ハ前項ノ規定ニ依リ委任セラレタル權限ノ一部ヲ總省省内ノ省長ニ委任スルコトヲ得

總省長、省長又ハ總省省内ノ省長ハ前二項ノ規定ニ依リ委任セラレタル權限ノ一部ヲ市長、縣長又ハ旗長ニ委任スルコトヲ得

第十條中「一萬圓以下ノ罰金」ヲ「三年以下ノ徒刑又ハ三萬圓以下ノ罰金」ニ改メ同條第三號乃至第六號ヲ削ル

第十一條ノ左ノ如ク改ム

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ徒刑又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第五條ノ二乃至第五條ノ五ノ規定ニ依リ命令ニ違反シタル者

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

經濟部令第六十一號

臨時資金統制法施行規則中左ノ通改正ス

康徳十一年十一月六日

經濟部大臣 院 振 鐸

一 第一條中第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第三項乃至第七項ヲ削ル

本令ニ於テ第一四半期トハ四月ヨリ六月、第二四半期トハ七月ヨリ九月、第三四半期トハ十月ヨリ十二月、第四四半期トハ翌年一月ヨリ三月ニ至ル期間ヲ謂フ

二 第二條ノ左ノ如ク改ム

第二條 臨時資金統制法第二條第三項ニ關シ金融事業ヲ營ム者ノ範圍ヲ定ムルコト左ノ如ク

一 第一條中第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第三項乃至第七項ヲ削ル

本令ニ於テ第一四半期トハ四月ヨリ六月、第二四半期トハ七月ヨリ九月、第三四半期トハ十月ヨリ十二月、第四四半期トハ翌年一月ヨリ三月ニ至ル期間ヲ謂フ

二 第二條ノ左ノ如ク改ム

第二條 臨時資金統制法第二條第三項ニ關シ金融事業ヲ營ム者ノ範圍ヲ定ムルコト左ノ如ク

一 第一條中第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第三項乃至第七項ヲ削ル

本令ニ於テ第一四半期トハ四月ヨリ六月、第二四半期トハ七月ヨリ九月、第三四半期トハ十月ヨリ十二月、第四四半期トハ翌年一月ヨリ三月ニ至ル期間ヲ謂フ

二 第二條ノ左ノ如ク改ム

第二條 臨時資金統制法第二條第三項ニ關シ金融事業ヲ營ム者ノ範圍ヲ定ムルコト左ノ如ク

一 第一條中第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第三項乃至第七項ヲ削ル

本令ニ於テ第一四半期トハ四月ヨリ六月、第二四半期トハ七月ヨリ九月、第三四半期トハ十月ヨリ十二月、第四四半期トハ翌年一月ヨリ三月ニ至ル期間ヲ謂フ

二 第二條ノ左ノ如ク改ム

第二條 臨時資金統制法第二條第三項ニ關シ金融事業ヲ營ム者ノ範圍ヲ定ムルコト左ノ如ク

一 第一條中第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第三項乃至第七項ヲ削ル

本令ニ於テ第一四半期トハ四月ヨリ六月、第二四半期トハ七月ヨリ九月、第三四半期トハ十月ヨリ十二月、第四四半期トハ翌年一月ヨリ三月ニ至ル期間ヲ謂フ

二 第二條ノ左ノ如ク改ム

第二條 臨時資金統制法第二條第三項ニ關シ金融事業ヲ營ム者ノ範圍ヲ定ムルコト左ノ如ク

一 第一條中第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第三項乃至第七項ヲ削ル

本令ニ於テ第一四半期トハ四月ヨリ六月、第二四半期トハ七月ヨリ九月、第三四半期トハ十月ヨリ十二月、第四四半期トハ翌年一月ヨリ三月ニ至ル期間ヲ謂フ

二 第二條ノ左ノ如ク改ム

第二條 臨時資金統制法第二條第三項ニ關シ金融事業ヲ營ム者ノ範圍ヲ定ムルコト左ノ如ク

一 第一條中第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第三項乃至第七項ヲ削ル

本令ニ於テ第一四半期トハ四月ヨリ六月、第二四半期トハ七月ヨリ九月、第三四半期トハ十月ヨリ十二月、第四四半期トハ翌年一月ヨリ三月ニ至ル期間ヲ謂フ

二 第二條ノ左ノ如ク改ム

第二條 臨時資金統制法第二條第三項ニ關シ金融事業ヲ營ム者ノ範圍ヲ定ムルコト左ノ如ク

一 第一條中第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第三項乃至第七項ヲ削ル

本令ニ於テ第一四半期トハ四月ヨリ六月、第二四半期トハ七月ヨリ九月、第三四半期トハ十月ヨリ十二月、第四四半期トハ翌年一月ヨリ三月ニ至ル期間ヲ謂フ

二 第二條ノ左ノ如ク改ム

第二條 臨時資金統制法第二條第三項ニ關シ金融事業ヲ營ム者ノ範圍ヲ定ムルコト左ノ如ク

一 第一條中第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第三項乃至第七項ヲ削ル

本令ニ於テ第一四半期トハ四月ヨリ六月、第二四半期トハ七月ヨリ九月、第三四半期トハ十月ヨリ十二月、第四四半期トハ翌年一月ヨリ三月ニ至ル期間ヲ謂フ

二 第二條ノ左ノ如ク改ム

第二條 臨時資金統制法第二條第三項ニ關シ金融事業ヲ營ム者ノ範圍ヲ定ムルコト左ノ如ク

一 第一條中第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第三項乃至第七項ヲ削ル

本令ニ於テ第一四半期トハ四月ヨリ六月、第二四半期トハ七月ヨリ九月、第三四半期トハ十月ヨリ十二月、第四四半期トハ翌年一月ヨリ三月ニ至ル期間ヲ謂フ

二 第二條ノ左ノ如ク改ム

第二條 臨時資金統制法第二條第三項ニ關シ金融事業ヲ營ム者ノ範圍ヲ定ムルコト左ノ如ク

一 第一條中第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第三項乃至第七項ヲ削ル

本令ニ於テ第一四半期トハ四月ヨリ六月、第二四半期トハ七月ヨリ九月、第三四半期トハ十月ヨリ十二月、第四四半期トハ翌年一月ヨリ三月ニ至ル期間ヲ謂フ

二 第二條ノ左ノ如ク改ム

第二條 臨時資金統制法第二條第三項ニ關シ金融事業ヲ營ム者ノ範圍ヲ定ムルコト左ノ如ク

一 第一條中第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第三項乃至第七項ヲ削ル

本令ニ於テ第一四半期トハ四月ヨリ六月、第二四半期トハ七月ヨリ九月、第三四半期トハ十月ヨリ十二月、第四四半期トハ翌年一月ヨリ三月ニ至ル期間ヲ謂フ

二 第二條ノ左ノ如ク改ム

第二條 臨時資金統制法第二條第三項ニ關シ金融事業ヲ營ム者ノ範圍ヲ定ムルコト左ノ如ク

一 第一條中第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第三項乃至第七項ヲ削ル

本令ニ於テ第一四半期トハ四月ヨリ六月、第二四半期トハ七月ヨリ九月、第三四半期トハ十月ヨリ十二月、第四四半期トハ翌年一月ヨリ三月ニ至ル期間ヲ謂フ

二 第二條ノ左ノ如ク改ム

第二條 臨時資金統制法第二條第三項ニ關シ金融事業ヲ營ム者ノ範圍ヲ定ムルコト左ノ如ク

一 第一條中第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第三項乃至第七項ヲ削ル

本令ニ於テ第一四半期トハ四月ヨリ六月、第二四半期トハ七月ヨリ九月、第三四半期トハ十月ヨリ十二月、第四四半期トハ翌年一月ヨリ三月ニ至ル期間ヲ謂フ

二 第二條ノ左ノ如ク改ム

第二條 臨時資金統制法第二條第三項ニ關シ金融事業ヲ營ム者ノ範圍ヲ定ムルコト左ノ如ク

一 第一條中第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第三項乃至第七項ヲ削ル

本令ニ於テ第一四半期トハ四月ヨリ六月、第二四半期トハ七月ヨリ九月、第三四半期トハ十月ヨリ十二月、第四四半期トハ翌年一月ヨリ三月ニ至ル期間ヲ謂フ

一 金融機關(銀行、興業庫、商工金融合作社、無盡會社及保險會社ヲ謂フ)

二 金融業者(前號以外ノ者ニシテ經濟部大臣ノ指定スル者ヲ謂フ)

三 第四條乃至第八條ヲ左ノ如ク改ム

第九條ヲ削ル

第四條 金融機關(各營業所別トス以下同ジ)ハ四半期毎ニ流動資金ノ貸出ニ付左ノ區分ニ依リ經濟部大臣ノ認可ヲ受ケベシ

一 資本金(出資ノ總額ヲ含ム以下同ジ)二十萬圓以上ノ會社(會社ニ非ザル法人ニシテ臨時資金統制法第四條第一項ノ規定ニ依リ經濟部大臣ノ指定スルモノヲ含ム以下同ジ)ニ對シテ貸出ニ付テハ當該四半期ノ會社別貸出極度額

二 前號以外ノ貸出先ニ對シテ貸出ニシテ三萬圓以上ノモノニ付テハ當該四半期ノ貸出先別貸出極度額

三 前二號以外ノ貸出ニ付テハ當該四半期ノ最高貸出額

前項ノ認可ヲ受ケントスル者ハ別表第二號様式ニ依リ認可申請書正副二通ニ別表第三號様式ニ依リ當該四半期ノ資金運用計畫表二通ヲ添附シテ滿洲中央銀行ヲ經テ經濟部大臣ニ提出スベシ

第五條 金融業者(各營業所別トス

以下同ジ)ハ四半期毎ニ當該四半期中ニ於テ流動資金ノ最高貸出額一萬圓以上ノ貸出ヲ爲サントスルトキハ其ノ最高貸出額ニ付經濟部大臣ノ認可ヲ受ケベシ

前項ノ認可ヲ受ケントスル者ハ別表第四號様式ニ依リ認可申請書正副二通ニ別表第五號様式ニ依リ當該四半期ノ資金運用計畫表二通ヲ添附シテ滿洲中央銀行ヲ經テ經濟部大臣ニ提出スベシ

第六條 前二條ノ認可申請ハ當該四半期開始前三十日迄ニ之ヲ爲スベシ但シ已ムラ得ザル事由アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 金融機關又ハ金融業者第四條又ハ第五條ニ依リ認可ヲ受ケタル後當該四半期中ニ於テ流動資金ノ新規又ハ認可額ヲ超過セル貸出ヲ爲サントスルトキハ經濟部大臣ノ認可ヲ受ケベシ金融機關又ハ金融業者四半期ノ中途ニ於テ新營業所ヲ設置シ流動資金ノ貸出ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

前項ノ認可ヲ受ケントスル者ハ別表第六號様式ニ依リ認可申請書正副二通ヲ滿洲中央銀行ヲ經テ經濟部大臣ニ提出スベシ

第八條 經濟部大臣資金ノ統制上必要アリト認ムルトキハ金融機關又ハ金融業者ニ對シテ第四條第五條及第七條ノ規定ニ依リ認可ヲ取消シ又ハ認可額ノ減額ヲ命ズルコトヲ得

以下同ジ)ハ四半期毎ニ當該四半期中ニ於テ流動資金ノ最高貸出額一萬圓以上ノ貸出ヲ爲サントスルトキハ其ノ最高貸出額ニ付經濟部大臣ノ認可ヲ受ケベシ

前項ノ認可ヲ受ケントスル者ハ別表第四號様式ニ依リ認可申請書正副二通ニ別表第五號様式ニ依リ當該四半期ノ資金運用計畫表二通ヲ添附シテ滿洲中央銀行ヲ經テ經濟部大臣ニ提出スベシ

第六條 前二條ノ認可申請ハ當該四半期開始前三十日迄ニ之ヲ爲スベシ但シ已ムラ得ザル事由アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 金融機關又ハ金融業者第四條又ハ第五條ニ依リ認可ヲ受ケタル後當該四半期中ニ於テ流動資金ノ新規又ハ認可額ヲ超過セル貸出ヲ爲サントスルトキハ經濟部大臣ノ認可ヲ受ケベシ金融機關又ハ金融業者四半期ノ中途ニ於テ新營業所ヲ設置シ流動資金ノ貸出ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

前項ノ認可ヲ受ケントスル者ハ別表第六號様式ニ依リ認可申請書正副二通ヲ滿洲中央銀行ヲ經テ經濟部大臣ニ提出スベシ

第八條 經濟部大臣資金ノ統制上必要アリト認ムルトキハ金融機關又ハ金融業者ニ對シテ第四條第五條及第七條ノ規定ニ依リ認可ヲ取消シ又ハ認可額ノ減額ヲ命ズルコトヲ得

得

第四條中第三項、第十一條中第三項、第十二條中第四項、第十三條中第四項、第十四條中第四項、第十五條中第三項、第十六條中第四項、第十七條中第三項、第二十條中第四項及第二十一條中第二項ヲ削ル

第五條(會社ニ非ザル法人ニシテ臨時資金統制法第四條第一項ノ規定ニ依リ經濟部大臣ノ指定スルモノヲ除ク)ニ改メ株金總額又ハ出資總額ヲ謂フ以下同ジ)ヲ削ル

第六條第十條第九條トシテ以下第十三條迄逐條繰上テ第十三條第一項ヲ左ノ如ク改ム

資本金二十萬圓以上ノ會社資本ノ増加ヲ爲サントスルトキハ經濟部大臣ノ認可ヲ受ケベシ但シ會社ニ非ザル法人ニシテ臨時資金統制法第四條第一項ノ規定ニ依リ經濟部大臣ノ指定スルモノヲ除ク)ニ改メ株金總額又ハ出資總額ヲ謂フ以下同ジ)ニ改ム

第七條第十條第一項中「每事業年度ノ利益」ヲ「每事業年度ノ利益(剰餘金ヲ含ム以下同ジ)」ニ改ム

第八條第十條第七項トシテ以下第十二條迄逐條繰上テ第二十一條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十一條 時局特別保險法ニ依リ

時局財產保險ノ保險金債務ノ決済ハ被保險者ノ指定スル金融機關(以下被保險者ノ預金又ハ儲金(以下預備金ト稱ス)ト爲スコトニ依リ之ヲ爲スベシ)但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 保險金(同一ノ保險ノ目的ニ付數箇ノ保險契約存スルトキハ其ノ合計額)一萬圓ヲ超ユル場合ニ於テ一萬圓以下ノ部分及保險金一萬圓以下ノ支拂ヲ爲スコト

二 被保險者保險ノ目的ヲ修理シ又ハ之ニ代ルベキモノヲ取得スル等特別ノ事情アル場合ニ於テ經濟部大臣ノ許可ヲ受ケタル金額ノ支拂ヲ爲スコト

同一ノ保險ノ目的ニ付數箇ノ保險契約存スル場合ニ於テ前項俱備ノ規定ニ依リ各保險會社ノ支拂フベキ金額ハ各保險金額ノ割合ニ依リテ之ヲ定ム

第一項第二號ノ許可ヲ受ケントスル被保險者ハ別表第二十八號様式ニ依リ申請書正副二通ヲ滿洲中央銀行ヲ經テ經濟部大臣ニ提出スベシ

第九條第二十一條ノ二中「儲金若ハ預金(以下預備金ト稱ス)」ヲ「預備金」ニ改ム

第十條第二十一條ノ七中「第二十一條ノ二」ヲ「第二十一條又ハ第二十二條ノ二」ニ改メ「滿洲興業銀行」ヲ「銀行」ニ改ム

商工金融合作社及銀行」ヲ「及商工金融合作社」ニ改ム  
 十一 第二十一條ノ八第二項中「第二十二條ノ二」ヲ「第二十一條又ハ第二十二條ノ二」ニ改ム  
 十二 第二十二條ヲ左ノ如ク改ム  
 第二十二條 資本金二十萬圓以上ノ會社ハ第一四半期開始前六十日第十日迄ニ別表第七號様式ニ依ル事業資金計畫書正副二通ヲ滿洲中央銀行ヲ經テ經濟部大臣ニ提出スベシ  
 十三 別表様式中第二號様式、第三號様式ノ甲、第三號様式ノ乙、第四號様式、第五號様式、第六號様式ノ甲、第六號様式ノ乙、第七號様式、第九號様式、第十一號様式、第十三號様式、第十五號様式、第十七號様式、第十九號様式、第二十一號様式、第二十三號様式、第二十六號様式及第二十八號様式ヲ制ル  
 附 則  
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 本令施行後舊法十一年十二月三十一日迄ニ於ケル流動資金ノ貸出ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル但シ此ノ場合ニ於テ流動資金ノ貸出ノ認可ノ効力ハ舊法十二年三月三十一日迄トス  
 本令施行前流動資金ノ貸出ニ付經濟部大臣ノ爲シタル認可ハ本令ニ依ル流動資金貸出ノ認可ト看做ス但シ其ノ効力ハ舊法十一年十二月三十一日迄トス

三、改正法並ニ施行規則逐條說明

(一) 臨時資金統制法  
 資金融出ヲ統制スル規定ヲ付テ從來「金融機關」ガ資金ノ貸出ヲ爲サントスルトキハ施行規則ノ定ムル所ニ依リ經濟部大臣ノ認可ヲ要スルコトトナツテキタノヲ今同ノ改正ニヨリ其ノ統制範圍ヲ更ニ擴大シ「金融事業ヲ營ム者」即チ從來ノ金融機關ノミナラス所謂金融業者ハ其ガ本業タルト否トヲ問ハズ其ノ貸出ニ付經濟部大臣ノ認可ヲ受ケネバナラヌヤウニナツタ  
 (二) 第四條 從來會社ノ資金ノ活動ノ限ノ認可ヲ得サシメル規定デアツテ從來ノ企業活動ハ商法上ノ會社ガ主タルモノデアツタカラ會社ノ對象トスルコトニヨリ充分其ノ統制目的ヲ達シ得タノデアラガ近來公社、社團法人及ビ事業統制組合等、會社形態ニ據ラナイ企業ノ發生ヲ見ルニ及ビ到底會社ノミデハ企業ノ資金活動ヲ捕捉シ得ヌコトハ明ラカナル状態トナツタ  
 茲ニ於テ「會社」ヲ「會社(會社ニ非ザル法人ニシテ經濟部大臣ノ指定スルモノヲ含ム以下同ジ)」ト改正シ商法上ノ會社ノミナラス廣ク特別立法又ハ民法ニ依ル法人(今同指定ノモノハ滿洲農地開發公社、滿洲林産公社、新聞社、滿洲國通信社、社團法人滿洲國厚生會、事業統制組合)ノ資本(出資ノ總額)増加、合併、目的變更、第二回以後ノ株金(出資金)徵收、社債募集、利益(剩餘金)ノ配當ニ付テモ本法ニ依ル認可ヲ受ケシムル事トナリ、經濟實體ノ推移ニ伴ヒ一段ト本法ガ整備擴充サレル事ニナツタ。尙「資本」株金、「利益」各字句ノ下ニ「出資ノ總額ヲ含ム以下同ジ」(出資ヲ含ム以下同ジ)ト夫々挿入サレタノハ指定法人ニ本法ガ適用サレルトキ其等字句ハ當然括弧書ノ意味ガ包含サレルトノ有權解釋ヲ法文ニ明示シタノデアラル  
 (三) 第四條ノ二 從前本規定ニ於テ脱落シタキタ「社債」ノ字句ヲ補ツタモノデ内容上ノ變更ハナイ  
 (四) 第五條ノ二 第四條以下各條中「會社」ニ指定法人ヲ含ムコトトナリタル爲「利益金」ニ「剩餘金」ヲ含マシメタモノデアラル  
 (五) 第五條ノ三 預金利率又ハ貸付利率其ノ他ノ條件ニツキ必要ナル命令ヲ經濟部大臣ガ「預金ノ受入又ハ金銀ノ貸出ヲ業トスル者」ニ對シ爲シ得ルコト云フ金融業者ニ對スル監督規定デアラガ其ノ對象トスル範圍ヲ今回ノ改正ニ依リ「金融事業ヲ營ム者」ニ改メタル  
 (六) 第五條ノ四 從來「土地其ノ他」ノノ讓渡者、被收用者及其ノ利害關係人ノ備置義務」ヲ規定セル第五條ノ四ヲ今回改正スル意味ハ單ニ不動產讓渡ノ際ノミナラス浮動購買力ハ時局下種々ノ金錢投資ニ際シテ生起スルヲ以テ總ニ金錢債務ニ付テ其ノ支拂ハレタ金錢ノ處分方法又ハ其ノ決済方法ヲ經濟部大臣ガ指定シ極力浮動購買力ノ封鎖ヲナサントスルモノデアラル  
 (七) 第六條 指定法令ニ依リ主管官署ガ「イ」金融事業ヲ營ム者ノ資金ノ貸出ハ金融事業ヲ營ム者ヨリノ資金ノ借入(ロ)會社ノ事業經營(ハ)會社ノ資本増加、合併、目的變更、第二回以後ノ株金ノ徵收、社債募集、利益配當(ニ)事業設備ノ新設、擴張、改良ニ付テ認可ヲ得サントスルトキ豫メ經濟部大臣ニ協議スベキ規定デアラガ今回更ニ「第四條改正ノ項ヲ説明セル」會社ニ非ザル法人」ノ設立ニ付主管官署ガ命令又ハ認可ヲ得サントスルコトトナシモ亦經濟部大臣ニ協議ヲ要スルコトトナツタ  
 唯茲ニ注意スベキ點ハ組織組合ニ於テハ各部各省ニ於テ設立認可及命令ガナサレルカラ實際上ノ處置トシテ省ノ開拓科ヨリ經濟部及現地中銀支店ヘ協議サレルコトトナル

(八) 第七條 經濟部大臣ノ資金狀況報告徵取權及臨檢權ヲ規定シテナルガ從來官吏ヲシテノ臨檢權ヲナサシメ得タノヲ今回改正ニ依リ官吏ノミナラス中銀職員等ノ專門的知識ヲ有スルモノノ中經濟部大臣ガ特ニ委嘱スル者ハ「イ」資金ノ供給及移動(ロ)有價證券(ハ)國際收支(ニ)事業ノ資金計畫(ホ)事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張又ハ改良(ヘ)會社ノ資産、負債及損益ノ内容、利益金ノ處分其ノ他經理ニ關スル事項ニ付、業務ノ狀況若クハ帳簿、書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲナスコトヲ出來ルコトニナリ企業ノ經理監督ガ可能トナツタノデアラル  
 此ノ規定ニ依リ臨檢検査スル場合ニハ検査票ヲ必ズ携行シテ被検査者ニ提示シテ検査ノ身分ヲ明カニセネバナラナイ。尙此ノ場合委嘱ヲ受ケ検査事務ニ從事スル者ハ公務員ト看做サレル  
 (九) 第七條ノ三 近夕産業統制法業種中一部輕易ナル業種ニ付テ總省長省長又ハ新京特別市長(認可權限委讓ガナラレル事ニ豫定サレテキルガ此ニ即應シテ臨時資金統制法モ亦總省長、省長又ハ新京特別市長及市、縣、市長ハ一部權限委讓ガ爲サレルコトニナツテキル  
 其ノ準備的規定トシテ本條ガ新タニ挿入サレルコトニナツタ。本條ニ依ル施行規則ガ制定サレテモ從來通り

中銀ガ本法ニ規定スル認可事務等ヲ取扱フコトニ變リハナイノデアラル。而シテ此規定ニ依リ施行規則ガ發布サレ始メテ上記ノ如キ取扱トナルノデアツタ其時迄ハ從來通りデアラル  
 (十) 第九條 從來ノ罰則規定ガ頗ル微溥デアツテ企業者ハ「一萬圓以下ノ罰金」ヲ受ケルナラシメ臨時資金統制法違反モ敢テ恐レヌルニ及バズト本法輕視ノ風潮ガアルコトハ否メナイ事實デアラル  
 時局下經濟事犯ハ戰力増強ヲ阻害スル惡習犯タルヲ以テ本法罰則ヲ強化シテ罰則ヲ加ヘ更ニ罰金額ノ過小ヲ是正スルコト緊要ナルヲ以テ本條罰則ヲ「三年以下ノ徒刑又ハ三萬圓以下ノ罰金」ト改正サレタ  
 (十一) 第十條 第九條ニ比シ若干輕易ナル事犯ニ付テハ本條改正ニ依リ「一年以下ノ徒刑又ハ一萬圓以下ノ罰金」ト罰則ヲ強化シタ  
 (十二) 第十一條 本條ヲ改メ「六月以下ノ徒刑又ハ五百圓以下ノ罰金」ト強化シ官吏ノ臨檢若ハ検査妨害罪ヲ規定セル本條中規定ノ官吏トイフ限定ヲ除去シ第七條改正ニ依ル「經濟部大臣ノ委嘱シタル者」ノ臨檢若ハ検査妨害罪ニモ本條ノ罰則適用アルモノトシタ  
 臨時資金統制法施行規則  
 (一) 第一條 施行規則中ニ使用サレル用語ノ概念規定ヲ冒頭ニ掲ゲタモノデアラガ今回ノ改正ニ必要ナル用  
 語ヲ殘シ他ハ全部削除サレタ。即チ「事業設備資金」流動資金ノ區別ト「各四半期ノ期間指定」ノ二カ必要ナル用語トシテ殘ル事ニナツタ  
 (二) 第二條 從前「金融機關」ノ範圍ヲ定メテキル規定デアラガ今回ノ改正ニ依リ本法第二條ニ於テ「金融事業ヲ營ム者」トナツタカラ從前ノ「金融機關」ノ他「金融業者」ノ概念規定ガ加ハル事トナツタ  
 「金融機關」ノ範圍ハ從來通り茲ニ謂フ「金融業者」トハ金融機關以外ノ者ニシテ經濟部大臣ガ指定スルモノデアラル。即チ今回ノ經濟部通告ニ依リ滿洲實業振興株式會社、東省實業株式會社、及ビ資本金(出資總額ヲ含ム)二十萬圓以上ノ金融會社、倉庫會社、不動產買賣又ハ賃貸會社ガ指定サレタ  
 (三) 第四條乃至第八條 舊規定第四條乃至第九條ハ限度超過貸付、限度超過割引、特殊用途資金貸付、基準貸付(割引)殘高設定、當座貸越極度金額超過(設定)ト各流動資金貸出ノ形態ニ分テ統制シテキタノデアラガ今回ノ改正ニ依レバ右ノ如ク貸出形態ヲ分ケルコトトナク包括的ナ一本ノ基準貸出極度額設定ニ付認可ヲ陷タル營業所別、貸出科目別ノ一萬圓以上認可申請及積算制度ヲ改

高貸出額三萬圓未満ニ限リ自由ニ其貸出先ヲ選擇シテ貸出シ得ルノデアル。

中銀本支店ニ於テハ(ロ)零細貸出ノ明細ヲ檢討スル必要アルトキ隨時隨地檢査又ハ報告書ヲ徵求スルコトヲナツテ可キ。

第五條 毎四半期中流動資金ノ最高貸出總額一萬圓以上トナル金融業者各營業所ハ矢張四半期毎ニ其貸出ニ付認可ヲ受ケネバナラナイ。

第四條ノ金融機關ノ場合ト異ル點ハ借主ノ個別ノ極度額ニ付テ認可サレル事ナク全部借主業種別最高貸出額ニ付テ包括的認可ガナラレルコトデアル。

第六條 金融機關及金融業者ノ四半期毎ノ流動資金貸出認可申請ノ時期ヲ各當該四半期開始前三十日迄ト限定シタ。但シ天災事變又ハ空襲等ノ極ク已ムヲ得ナイ事情アル時ニ限り期限後モ申請ヲ受付ケル事ニスル。

第七條 第四條又ハ第五條ヲ認可サレタ後、當該四半期中ニ事情ノ變更ニ依リ新規ノ資金需要ガ起ツタ場合、又ハ認可ヲ受ケテ貸出先別極度額又ハ業種別最高貸出額以上ニ流動資金ノ貸出ガ必要トナツタ時ニハ金融機關又ハ金融業者ガ經濟部大臣ノ認可ヲ受ケテ貸出ヲナシ得ル規定デアル。原則トシテ四半期毎ノ認可ヲナスコトニ依リ計畫的資金運用統制ヲ強化スル建前上、本條ニ依リ申請ハ其事情ノ變更ガ確認サレシ以上認可サレナイコトトナルカヲ第七條申請ハ已ムヲ得ザル場合ニノミナシ得ルモノデアル事ガ金融機關及金融業者ノ間ニ徹底シレル必要ガアル。

四半期ノ中途ニ新規開業ヲシタ金融機關又ハ金融業者ノ營業所ガ流動資金ノ貸出ヲナサツトスル時モ亦本條ニ依リ認可申請書ヲ提出シテ認可ヲ受ケルコトトナル。

第八條 經濟部大臣ハ經濟狀況ノ變化又ハ借主ノ業態變化ニ即應シテ認可ヲ取消シ又ハ認可額ノ減額ヲ命ジ得ルコトヲ規定シテ可キ。

(四) 第十條乃至第二十一條中各條項從來本法ニ依リ種々ノ認可ヲ受ケタ後其認可事項ノ完了次第完了報告書ヲ提出スルコトニナツテキタガ、資本金二十萬圓以上ノ會社及指定期間ヨリハ其決算期毎ニ「決算確定報告書」ヲ提出スルコトトナツテキルガラ其精査ニ依リ認可事項ノ完了又ハ進捗狀況ヲ知り得ルカラ此際一切ノ完了報告事項ハ法規定上廢止シ資金融制手續ノ簡素化ヲ圖ルコトトナツタ。

併シ資本金二十萬圓以上ノ會社及指定期間以外ノ者等ニシテ其企業經營狀況觀察上完了報告ガ必要ナ場合ハ其認可條件トシテ從來通り完了報告書ヲ提出シテ求メラレルコトガアル。

(五) 第十一條 舊規定第十二條方繰上ツテ第十一條トナツタモノデ本條ハ會社設立ニ付認可ヲ要スル規定デアル。其內容ハ從前ノ規定ト變ラズ「經濟部大臣ノ指定スル會社」ニ非ザル法人ノ設立ハ本法ニ依リ認可ヲ要シナイ。

施行規則第四條ニ於テ「資本金」ノ意味ハ以下各條ニ於テ出資ノ總額ヲ含ムモノトナシタカラ本條ニ於テ更ニ「資本金(株金總額又ハ出資總額)ヲ謂フ以下同ジ」ト法文上解釋ヲ附スルコトハ不要トナツタノデ括弧書ガ削除サレタノデアル。

(六) 流動資金貸出統制ノ舊規定ガ新規定トナリ一條減シタ爲メ第十三條迄一條宛繰上ツタ。

第十二條 舊第十三條ガ本條トナリ「會社」以外ニ「經濟部大臣ノ指定スル會社」ニ非ザル法人」モ亦會社ト同様其資本金(又ハ出資金)ノ増加ニ付認可ヲ要スルコトトナツタガ其中事業統制組合等ニ於テハ組合員數ノ變動クシテ從ツテ其出資金額ガ増減シ之ニ一ニ認可申請ヲ要スルコトトスレバ煩雜ニ堪ヘスカラ「會社」ニ非ザル法人」ニ限リ其資本金(出資金)ノ増加額ノ累計ガ五萬圓未満ノ場合ハ資本(出資)ノ増加ノ認可申請ヲ要シナイコトトナツテ可キ。

(七) 第十七條 利益配當統制規定ノ舊第十八條ガ本條ニナリ從前「利益

益」ニ今同ノ改正ニ依リ「剩餘金」ヲ含ムシメタノハ會社ニ非ザル法人利益ハ之ヲ剩餘金ト稱スルコトガ多ク其ノ配當ヲモ統制スルコトトナツタ爲メアル。

(八) 第十四條乃至第二十一條ヲ第十三條乃至第二十條ト各條名ヲ變更シテ其次ニ左ノ一條ヲ挿入シタ。

第二十一條 戰時災害ヲ救濟スル爲メ「時局特別保險法」ガ施行ニ制定公布サレタガ保險會社ガ災害ノ發生ニヨリ時局財產保險ノ目的ニ付保險金ヲ支拂フ場合、保險金受領者ニ於テ復舊資材ノ入手見込(受配見込)ガ立ツナイ時等ノ場合ニハ其ノ支拂ハレタ資金ガ浮動化スル懼ガ多分ニアルノデ保險會社ハ左ノ場合ヲ除キ其保險金ヲ現金支拂フコトトナク被保險者ノ選擇スル金融機關ヘノ被保險者名義ノ預備金トシテ預入レル事ニ依リ其ノ保險金債務ヲ決済スルコトトシ支拂保險金ノ浮動資金化ヲ防止スルコトトナツタ。

(1) 保險金(合計)額ガ一萬圓ヲ超過スル場合ニ於ケル一萬圓以下ノ部分及保險金額一萬圓以下ノ零細ナル金額ノ支拂ヲナストキ

(2) 被保險者ノ災害設備復舊又ハ

代替物取得等ノ緊要目的ニ使用スル場合等特別ナル事情アル時ニ於テ被保險者ガ經濟部大臣ノ許可ヲ受ケテ可キ。

一箇ノ保險目的物ニ數箇ノ保險契約ガアル場合ハ前記(1)(2)ニ依リ各保險會社ノ支拂フ金額ハ各保險金額ノ割合ニ按分シテ金額デアル。

(九) 第二十一條ノ二前條(第二十一條)ニ於テ「預金」ハ「儲蓄金」以下預備金ト稱スルコトト規定サレタカラ本條(不動産儲蓄)ニ於テ繰返ス必要ガアルノデ「預備金」ト改メラレタノデアル。

(十) 第二十一條ノ七 第二十一條ノ時局特別保險金預入レハ不動産儲蓄ト同ノ金融機關ヘ同一種類ノ預備金ヲナサレルコトト規定サレタ。又滿洲興業銀行ハ銀行デアルカラ特ニ其行名ヲ掲記スルコトハ取止メトナツタノデアル。

(十一) 第二十一條ノ八 時局特別保險金ニ依リ預備金ハ不動産儲蓄ト同ノ期間即チ三年間ハ經濟部大臣ノ許可ヲ受ケナイト其預備金ヲ讓渡シ排戻ヲ受ケ又ハ擔保ニ供スルコトトガ出来ナイコトト規定メテ可キ。

(十二) 第二十二條 舊規定ノ第二十二條ハ金融機關各店舖ガ四半期毎ニ「貸出金額高報告書」ヲ提出スヘキコトト規定メテ可キガ、流動資金貸出認可申請書様式ノ改正ニ依リ前々四半期末殘高ガ右申請書中ニ記載サレルコトトナツタカラ別途ニ本報告書ヲ提出シテ求メラレルコトトナツタ。

內容ガ改正サレテ資本金二十萬圓以上ノ會社及指定期間ヨリハ其決算期毎ニ「決算確定報告書」ヲ提出スルコトトナツタ。大區ヘ提出スル規定トナツタ。之ハ從前經濟部訓令ニ依リ毎年徵求サレテキタ「資 計畫報告書」及「四半期提出ノ四半期別資金繰表」ガ法規定ニ依リ徵求サレレルコトトナツタモノデアル。

第二十三條 「決算確定報告書」提出ヲ命ズル規定デアルガ其徵取對象ヲ從來ノ資本金二十萬圓以上ノ會社ノミナラズ更ニ擴張シテ資本金(出資金)二十萬圓以上ノ指定期間ヨリモ亦本報告書ヲ提出ヲナスコトトナリ前條ニ依リ提出サレタ「事業資金計畫書」ト適合セテ企業經營ノ全般ニ付綜合的ナ觀察ヲナスコトトナツタノデアル。

(十三) 廢止各條様式 各認可事項「完了報告書」及金融機關ノ各四半期末「貸出金額高報告書」提出規定ノ廢止ニ伴ヒ列記ノ十八種ノ各様式ハ之ヲ全部廢止スルコトトシ報告事項ノ劃期的ナ簡素化ヲ圖ルニ企業及金融機關ノ負擔ガ大ニ輕減サレタ。

(十四) 附 則 本附則ハ施行規則改正ニ伴フ經過的取扱ヲ示シタ規定デアル。即チ本改正施行規則ハ本令公布ノ日ヨリ直チニ施行サレルガ康

無十一年十二月末迄ノ流動資金ノ貸出ニ付テハ尙從前ノ規定(舊施行規則)ニ依リ金融機關ハ營業所別、貸出科目別一萬圓以上貸出ノ要認可ト實額承認ノ原則ト下ニ一筆毎貸出ノ都度申請認可サレルノデアルガ金融業者ハ康德十一年十二月末迄其ノ流動資金貸出ニ付認可ヲ要シナイ。

金融機關流動資金貸出ノ右ニ依リ認可ノ效力ハ康德十二年三月末迄ニ限定サレル。

四、新舊法令比較對照表

臨時資金統制法

第一條 本法ハ現下ノ時局ニ關聯シテ資金ノ活用ヲ圖ル爲メ其ノ統制ヲ施スル目的トス

第二條 金融事業ヲ營ム者資金ノ貸出ヲ爲サントスルコトキ經濟部大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ認可ヲ受ケベシ銀行、保險會社及有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ業トスル者外國有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルコトキ亦同ジ

前項ノ規定ハ前項ノ資金ノ貸出又ハ借入ニ付經濟部大臣ノ指定スル法令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケタルトキハ之ヲ適用セズ

第一項ノ金融事業ヲ營ム者ノ範圍ハ經濟部大臣ノ指定スル

第三條 會社ヲ設立セントスル者ハ經

本令公布ノ前日迄ニナサレタ流動資金貸出ノ認可ハ本改正施行規則ニ依リ認可ト看做サレルカガ其分ノ貸出ニ就テハ改メテ申請ノ必要ハナイ。

唯其ノ場合貸出認可ノ效力ハ總テ康德十一年十二月末デ切ワレルカラ貸出償還ノ期限ガ康德十二年一月一日以降ニ渡ルモノハ第四四半期分(自康德十二年一月至三月)ノ流動資金貸出認可申請書ニ記載シテ更メテ申請セババナイノデアル。

第一條 (同上)

第二條 金融機關資金ノ貸出ヲ爲サントスルコトキ經濟部大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ認可ヲ受ケベシ銀行、保險會社及有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ業トスル者外國有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルコトキ亦同ジ

前項ノ規定ハ前項ノ資金ノ貸出又ハ借入ニ付經濟部大臣ノ指定スル法令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケタルトキハ之ヲ適用セズ

第一項ノ金融機關ノ範圍ハ經濟部大臣ノ指定スル

第二條 (同上)

濟部大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ認可ヲ受クベシ  
 會社ノ設立ハ前項ノ認可ヲ受ケルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼス  
 會社ノ目的タル事業ヲ營ムニ付第一項ニ揚グル者經濟部大臣ノ指定スル法令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第四條 左ニ揚グル行為ヲ爲サントスル會社ハ經濟部大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ認可ヲ受クベシ  
 一 資本ノ増加  
 二 合併  
 三 目的ノ變更  
 四 第二回以後ノ株金(出資ヲ含ム以下同ジ)ノ徵收  
 五 社債ノ募集  
 六 利益(剰餘金ヲ含ム以下同ジ)ノ配當

前項第一號乃至第三號ニ揚グル行為ハ經濟部大臣ノ認可ヲ受ケタルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼス  
 前二項ノ規定ハ第一項ニ揚グル行為ニ付經濟部大臣ノ指定スル法令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノトキハ之ヲ適用セズ  
 經濟部大臣ノ指定スル法令ニ依リ其ノ認可ヲ受ケタルモノトキハ之ヲ適用セズ  
 第五條ノ二 事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲サントスル者

ハ經濟部大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ認可ヲ受クベシ  
 但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル資金ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
 一 事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル資金ノ貸出ニ付  
 本法ニ依リ認可ヲ受ケタル金融事業ヲ營ム者ヨリノ借入金  
 二 本法ニ依リ設立又ハ資本ノ増加ニ付認可ヲ受ケタル場合ノ會社ノ第一回拂込株金  
 三 本法ニ依リ株金ノ徵收又ハ社債ノ募集ニ付認可ヲ受ケタル場合ノ會社ノ第二回以後ノ拂込株金又ハ社債ノ收入金  
 前項ノ規定ハ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ付經濟部大臣ノ指定スル法令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケタルモノトキハ之ヲ適用セズ  
 經濟部大臣ノ指定スル法令ニ基テ命令ニ依リ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲ストキ亦同ジ

第五條ノ二 經濟部大臣ハ資金ノ統制上必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ左ノ各號ニ揚グル事項ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得  
 一 經費ノ支出

二 利益金(剰餘金ヲ含ム以下同ジ)ノ處分  
 三 資産ノ償却  
 四 資金ノ調達及運用  
 經濟部大臣前項ノ命令ヲ爲サントスルトキハ特別ノ法令ニ依リ主管官署ニ協議スベシ

第五條ノ三 經濟部大臣資金ノ統制上必要アリト認ムルトキハ金融事業ヲ營ム者ニ對シ預金又ハ貸出ノ利率其ノ他ノ條件ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第五條ノ四 經濟部大臣必要アリト認ムルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ土地其ノ他ノモノノ讓渡代金、補償金其ノ他ノ金銭債務ニシテ經濟部大臣ノ定ムルモノニ付支拂ハレタル金銭ノ處分又ハ決済ノ方法ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第五條ノ五 經濟部大臣國民儲蓄ノ増強ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ指定スル者ニ對シ方法又ハ條件ヲ指定シ資金ノ吸收ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第五條ノ六 經濟部大臣前項ノ規定ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テハ別ニ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償シ又ハ補助金ヲ交付スルコトヲ得

二 利益金ノ處分  
 三 資産ノ償却  
 四 資金ノ調達及運用  
 經濟部大臣前項ノ命令ヲ爲サントスルトキハ特別ノ法令ニ依リ主管官署ニ協議スベシ

第五條ノ三 經濟部大臣資金ノ統制上必要アリト認ムルトキハ預金ノ受入又ハ金銭ノ貸出ヲ業トスル者ニ對シ預金又ハ貸出ノ利率其ノ他ノ條件ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第五條ノ四 土地其ノ他ノモノニシテ經濟部大臣ノ定ムルモノヲ收用セラレ若ハ讓渡シタル者典權ヲ設定シ若ハ典物ノ請戻ヲ爲シタル者又ハ其ノ利害關係人ハ經濟部大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ代價ノ一部ニ相當スル價格ノ國債ヲ取得シ又ハ儲蓄ノ預金ヲ爲スベシ但シ經濟部大臣ノ別ニ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ前項ノ利害關係人ノ範圍ハ經濟部大臣ノラ定ム

第五條ノ五 (同上)

第五條ノ七 經濟部大臣國民儲蓄ノ増強ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ指定スル儲蓄ニ充ツルコトヲ得ル證券ヲ發行シ又ハ其ノ指定スル者ヲシテ之ヲ行セシムルコトヲ得  
 前項ノ證券ハ無記名トシ賣出ノ方法ニ依リ之ヲ發行ス

第五條ノ八 經濟部大臣必要アリト認ムルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ國民儲蓄ノ實踐ヲ阻害スル虞アリト認ムル行為ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第六條 經濟部大臣ノ指定スル法令ニ依リ主管官署左ノ各號ニ揚グル事項ニ付許可又ハ認可ヲ爲サントスルトキハ豫メ經濟部大臣ニ協議スベシ  
 一 第二條第一項ノ資金ノ貸出又ハ借入  
 二 第三條第一項ノ會社ノ目的タル事業ノ經營  
 三 第四條第一項ニ揚グル行為  
 四 第四條ノ二ノ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張又ハ改良

第五條ノ七 (同上)  
 第五條ノ八 (同上)

第六條 經濟部大臣ノ指定スル法令ニ依リ主管官署左ノ各號ニ揚グル事項ニ付許可又ハ認可ヲ爲サントスルトキハ豫メ經濟部大臣ニ協議スベシ  
 一 第二條第一項ノ資金ノ貸出又ハ借入  
 二 第三條第一項ノ會社ノ目的タル事業ノ經營  
 三 第四條第一項ニ揚グル行為  
 四 第四條ノ二ノ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張又ハ改良

法人ノ設立ニ付主管官署命令又ハ許  
可若ハ認可ヲ爲シントストキハ亦前  
項ニ同シ

第七條 經濟部大臣ハ資金ノ状況ヲ調  
査スル爲必要アリト認ムルトキハ左  
ニ掲グル事項ニ關シ關係者ヨリ報告  
ヲ徵シ又ハ當該官吏若ハ經濟部大臣  
ノ委嘱シタル者ヲシテ必要ナル場所  
ニ臨檢シ業務ノ状況若ハ帳簿書類  
其ノ他ノ物件ノ検査ヲ爲サシムルコ  
トヲ得

一 資金ノ需給及移動ニ關スル事項  
二 有價證券ニ關スル事項  
三 國際收支ニ關スル事項  
四 事業ノ資金計畫ニ關スル事項  
五 事業ニ關スル設備ノ新設、擴張  
又ハ改良ニ關スル事項  
六 會社ノ資產負債及損益ノ内容、  
利益金ノ處分其ノ他經理ニ關スル  
事項

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏又ハ經  
濟部大臣ノ委嘱ヲ受ケタル者ハ其ノ  
身分ヲ示ス證明ヲ携帶スベシ

第一項ノ場合ニ於テ委嘱ヲ受ケ當該  
事務ニ從事スル者ハ之ヲ公務員ト看  
做ス

第七條ノ二 經濟部大臣ハ第四條ノ二  
ニ規定スル認可ヲ受ケズシテ事業ニ  
關スル設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ  
爲シタル者ニ對シ其ノ中止ヲ命スル  
コトヲ得

第二項、第三條第一  
項、第四條第一項第一號乃至第五  
號、第四條ノ二又ハ第五條ノ規定ニ

依ル認可ニ付シタル條件ニ違反シテ  
事業ニ關スル設備ノ新設、擴張又ハ  
改良ヲ爲シタル者ニ付亦同シ

經濟部大臣前項ノ中止ヲ命セントス  
ルトキハ特別ノ法令ニ依ル主管官署  
ニ協議スベシ

第七條ノ三 經濟部大臣必要アリト認  
ムルトキハ本法ニ基ク權限ノ一部ヲ  
總省長、省長又ハ新京特別市長ニ委  
任スルコトヲ得

總省長ハ前項ノ規定ニ依リ委任セラ  
レタル權限ノ一部ヲ總省長、省長又ハ  
總省長内ノ省長ハ前二項ノ規定ニ依リ  
委任セラレタル權限ノ一部ヲ市長  
縣長又ハ旗長ニ委任スルコトヲ得

第八條 第二條乃至第五條ノ規定スル  
認可ニ關スル事務及第五條ノ七ノ規  
定ニ基キ發行スル證券ニ關スル事務  
ハ經濟部大臣ノ定ムル所ニ依リ滿洲  
中央銀行ヲシテ之ヲ行ハシム

前項ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ハ滿  
洲中央銀行ノ負擔トス

第八條ノ二 行使ノ目的ヲ以テ第五條  
ノ七ノ規定ニ基ク證券ヲ偽造又ハ變  
造シタル者ハ一年以上ノ有期徒刑ニ  
處ス偽造又ハ變造シタル其ノ證券ヲ  
行使シタル者ニ付亦同シ

前項ノ禁ヲ犯シタル者ハ其ノ情狀ニ因  
テ一萬圓以下ノ罰金ヲ併科スルコト  
ヲ得

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ  
三年以下ノ徒刑又ハ三萬圓以下ノ罰  
金ニ處ス

依ル認可ニ付シタル條件ニ違反シテ  
事業ニ關スル設備ノ新設、擴張又ハ  
改良ヲ爲シタル者ニ付亦同シ

經濟部大臣前項ノ中止ヲ命セントス  
ルトキハ特別ノ法令ニ依ル主管官署  
ニ協議スベシ

第七條ノ三 經濟部大臣必要アリト認  
ムルトキハ本法ニ基ク權限ノ一部ヲ  
總省長、省長又ハ新京特別市長ニ委  
任スルコトヲ得

總省長ハ前項ノ規定ニ依リ委任セラ  
レタル權限ノ一部ヲ總省長、省長又ハ  
總省長内ノ省長ハ前二項ノ規定ニ依リ  
委任セラレタル權限ノ一部ヲ市長  
縣長又ハ旗長ニ委任スルコトヲ得

第八條 第二條乃至第五條ノ規定スル  
認可ニ關スル事務及第五條ノ七ノ規  
定ニ基キ發行スル證券ニ關スル事務  
ハ經濟部大臣ノ定ムル所ニ依リ滿洲  
中央銀行ヲシテ之ヲ行ハシム

前項ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ハ滿  
洲中央銀行ノ負擔トス

第八條ノ二 行使ノ目的ヲ以テ第五條  
ノ七ノ規定ニ基ク證券ヲ偽造又ハ變  
造シタル者ハ一年以上ノ有期徒刑ニ  
處ス偽造又ハ變造シタル其ノ證券ヲ  
行使シタル者ニ付亦同シ

前項ノ禁ヲ犯シタル者ハ其ノ情狀ニ因  
テ一萬圓以下ノ罰金ヲ併科スルコト  
ヲ得

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ  
三年以下ノ徒刑又ハ三萬圓以下ノ罰  
金ニ處ス

官吏ノ臨檢者検査ヲ妨ゲタル者ハ千  
圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 (同上)

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ  
三年以下ノ徒刑又ハ三萬圓以下ノ罰  
金ニ處ス

金ニ處ス

一 第二條ノ規定ニ違反シ認可ヲ受  
ケズシテ資金ノ貸出ヲ爲シ又ハ有  
價證券ノ應募、引受若ハ募集ヲ取  
扱フ爲シタル者

二 第四條第一項ノ規定ニ違反シ認  
可ヲ受ケズシテ株金拂込ノ報告、  
社債ノ募集若ハ利益ノ配當ヲ爲シ  
又ハ第四條ノ二第一項ノ規定ニ違  
反シ認可ヲ受ケズシテ事業ニ關ス  
ル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ爲  
シタル者

一 第二條ノ規定ニ違反シ認可ヲ受  
ケズシテ資金ノ貸出ヲ爲シ又ハ有  
價證券ノ應募、引受若ハ募集ヲ取  
扱フ爲シタル者

二 第四條第一項ノ規定ニ違反シ認  
可ヲ受ケズシテ株金拂込ノ報告、  
社債ノ募集若ハ利益ノ配當ヲ爲シ  
又ハ第四條ノ二第一項ノ規定ニ違  
反シ認可ヲ受ケズシテ事業ニ關ス  
ル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ爲  
シタル者

三 第五條ノ二ノ規定ニ依ル命令ニ  
違反シタル者

四 第五條ノ四ノ規定ニ違反シ國債  
ヲ取得セズ又ハ儲蓄若ハ預金ヲ爲  
サザル者

五 第五條ノ五ノ規定ニ依ル命令ニ  
違反シタル者

六 第五條ノ八ニ基ク命令ノ規定ニ  
違反シ制限又ハ禁止セラレタル行爲  
ヲ爲シタル者

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ  
三年以下ノ罰金ニ處ス

罰金ニ處ス

一 本法又ハ本法ニ基キテ爲ス命令  
ニ依リ提出スベキ許可又ハ認可ノ  
申請書ニ虛偽ノ事項ヲ記載シテ之  
ヲ提出シタル者

二 第七條第一項ノ規定ニ依ル報告  
ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ又  
ハ臨檢者ハ検査ヲ妨ゲタル者

第十二條 前二條ノ規定ニ適用ニ付テ  
ハ康德五年勅令第二百二十五號行政  
法規ノ刑罰適用ニ關スル件ニ依ル

官吏ノ臨檢者検査ヲ妨ゲタル者ハ千  
圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 (同上)

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ  
三年以下ノ徒刑又ハ三萬圓以下ノ罰  
金ニ處ス

臨時資金統制法施行  
規則新舊比較對照表

改正規則

第一條 本令ニ於テ事業設備資金トハ  
事業ニ關スル設備ノ新設、擴張又ハ  
改良ノ爲ニ使用セララルモノト認ム  
ル資金ヲ謂フ本令ニ於テ流動資金ト  
ハ事業設備資金以外ノ資金ヲ謂フ

本令ニ於テ第一四半期トハ四月ヨリ  
六月、第二四半期トハ七月ヨリ九  
月、第三四半期トハ十月ヨリ十二  
月、第四四半期トハ翌年一月ヨリ三  
月ニ至ル期間ヲ謂フ

現行規則

第一條 本令ニ於テ事業設備資金トハ  
事業ニ關スル設備ノ新設、擴張又ハ  
改良ノ爲ニ使用セララルモノト認ム  
ル資金ヲ謂フ

本令ニ於テ流動資金トハ事業設備資  
金以外ノ資金ヲ謂フ

本令ニ於テ運轉資金トハ流動資金中  
商品若ハ原材料ノ仕入又ハ運賃、諸  
給與、配當金若ハ税金ノ支拂其ノ他  
事業ノ運営上通常必要ナル用途ニ使  
用セララルモノト認ムル資金ヲ謂フ

本令ニ於テ貸出トハ證書貸付、手形  
貸付、手形ノ割引又ハ當座貸越(爲  
替前貸付)以下同ジ)ヲ謂フ

本令ニ於テ四半期トハ一月ヨリ三







第十七條 資本金二十萬圓以上ノ會社  
 每事業年度ノ利益(剰餘金ヲ含ム以  
 下同シ)配當(紀念配當ハ特別配當  
 其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ特別配  
 當ヲ除ク以下同シ)ヲ年百分ノ八  
 超ユル率ニ依リ爲サントスルトキハ  
 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除キ  
 經濟部大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
 一 最近ノ決算期ニ於ケル利益配當  
 ノ率ヲ據置クトキ又ハ其ノ率以下  
 ノ率ニ依ルトキ  
 二 最近ノ決算期ニ於テ年百分ノ八  
 以上百分ノ十未満ノ率ニ依リ利益  
 配當ヲ爲シタル會社其ノ利益配當  
 ノ率ニ年百分ノ一(一年ヲ一事業  
 年度トスルモノ)ニ在リテハ百分ノ  
 二以下ヲ加ヘタル率ニ依ルトキ  
 但シ配當率ハ年百分ノ十ヲ超ユル  
 コトヲ得ス  
 資本金二十萬圓以上ノ會社ニシテ經  
 濟部大臣ノ指定スル會社每事業年度  
 ノ利益配當率年百分ノ八ヲ超ユル  
 率ニ依リ爲サントスルトキハ前項第  
 一號ニ該當スル場合ヲ除キ經濟部大  
 臣ノ認可ヲ受クヘシ  
 前二項ノ認可ヲ受ケントスル會社ハ  
 別表第二十號様式ニ依リ認可申請書  
 正副二通ヲ滿洲中央銀行ヲ經テ經  
 濟部大臣ニ提出スヘシ  
 第十八條 資本金二十萬圓以上ノ會社

ルトキハ滯滞ナク別表第二十三號様  
 式ニ依リ報告正副二通ヲ滿洲中央  
 銀行ヲ經テ經濟部大臣ニ提出スヘシ  
 第十八條 資本金二十萬圓以上ノ會社  
 每事業年度ノ利益配當(紀念配當  
 特別配當其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ  
 特別配當ヲ除ク以下同シ)ヲ年百  
 分ノ八ヲ超ユル率ニ依リ爲サントス  
 ルトキハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場  
 合ヲ除キ經濟部大臣ノ認可ヲ受クヘ  
 シ  
 一 最近ノ決算期ニ於ケル利益配當  
 ノ率ヲ據置クトキ又ハ其ノ率以下  
 ノ率ニ依ルトキ  
 二 最近ノ決算期ニ於テ年百分ノ八  
 以上百分ノ十未満ノ率ニ依リ利益  
 配當ヲ爲シタル會社其ノ利益配當  
 ノ率ニ年百分ノ一(一年ヲ一事業  
 年度トスルモノ)ニ在リテハ百分ノ  
 二以下ヲ加ヘタル率ニ依ルトキ  
 但シ配當率ハ年百分ノ十ヲ超ユル  
 コトヲ得ス  
 資本金二十萬圓以上ノ會社ニシテ經  
 濟部大臣ノ指定スル會社每事業年度  
 ノ利益配當率年百分ノ八ヲ超ユル  
 率ニ依リ爲サントスルトキハ前項第  
 一號ニ該當スル場合ヲ除キ經濟部大  
 臣ノ認可ヲ受クヘシ  
 前二項ノ認可ヲ受ケントスル會社ハ  
 別表第二十四號様式ニ依リ認可申請  
 書正副二通ヲ滿洲中央銀行ヲ經テ經  
 濟部大臣ニ提出スヘシ  
 第十九條 資本金二十萬圓以上ノ會社

利益配當ノ外特別利益配當ヲ爲サン  
 トスルトキハ其ノ特別利益配當ノ率  
 カ其ノ利益配當ノ率ト合算シテ年百  
 分ノ八ヲ超ユル場合ヲ除キ經濟部  
 大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
 前條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之  
 ヲ準用ス  
 第十九條 臨時資金統制法第四條ノ二  
 第一項第一號乃至第三號ニ掲グル資  
 金ニ依ラサル五萬圓以上ノ事業ニ應  
 スル設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲  
 サントスル者ハ其ノ新設、擴張又ハ  
 改良ニ付經濟部大臣ノ認可ヲ受クヘ  
 シ  
 前項ニ五萬圓以上トアルハ別表ニ掲  
 グル事業ニ應スル設備ノ新設、擴張  
 又ハ改良ニ付テハ三萬圓以上トス  
 第一項ノ認可ヲ受ケントスル者ハ別  
 表第二十五號様式ニ依リ認可申請書  
 正副二通ヲ滿洲中央銀行ヲ經テ經  
 濟部大臣ニ提出スヘシ  
 第二十條 臨時資金統制法第五條ノ重  
 要産業ニ屬スル事業ヲ營ム株式會社  
 會社法第五十八條第一項及第二項  
 ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募集  
 スル爲メ經濟部大臣ノ認可ヲ受ケン

利益配當ノ外特別利益配當ヲ爲サン  
 トスルトキハ其ノ特別利益配當ノ率  
 カ其ノ利益配當ノ率ト合算シテ年百  
 分ノ八ヲ超ユル場合ヲ除キ經濟部  
 大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
 前條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之  
 ヲ準用ス  
 第二十條 臨時資金統制法第四條ノ二  
 第一項第一號乃至第三號ニ掲グル資  
 金ニ依ラサル五萬圓以上ノ事業ニ應  
 スル設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲  
 サントスル者ハ其ノ新設、擴張又ハ  
 改良ニ付經濟部大臣ノ認可ヲ受クヘ  
 シ  
 前項ニ五萬圓以上トアルハ別表ニ掲  
 グル事業ニ應スル設備ノ新設、擴張  
 又ハ改良ニ付テハ三萬圓以上トス  
 第一項ノ認可ヲ受ケントスル者ハ別  
 表第二十五號様式ニ依リ認可申請書  
 正副二通ヲ滿洲中央銀行ヲ經テ經  
 濟部大臣ニ提出スヘシ  
 第一項ノ規定ニ依リ事業ニ屬スル設  
 備ノ新設、擴張又ハ改良ノ認可ヲ受  
 ケタル者其ノ事業ノ屬スル設備ノ新  
 設、擴張又ハ改良ニ付テハ別表ニ  
 滯滞ナク別表第二十六號様式ニ依リ  
 報告書正副二通ヲ滿洲中央銀行ヲ經  
 テ經濟部大臣ニ提出スヘシ  
 第二十一條 臨時資金統制法第五條ノ  
 重要産業ニ屬スル事業ヲ營ム株式會  
 社會社法第五十八條第一項及第二  
 項ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募  
 集スル爲メ經濟部大臣ノ認可ヲ受ク

トスルトキハ別表第二十七號様式ニ  
 依リ認可申請書正副二通ヲ滿洲中央  
 銀行ヲ經テ經濟部大臣ニ提出スヘシ  
 第二十一條 時局特別保險法ニ依ル時  
 局財產保險ノ保險金債務ノ決済ハ被  
 保險者ノ指定スル金融機關ヘノ被保  
 險者ノ預金又ハ儲蓄金(以下預備金ト  
 稱ス)ト爲スコトニ依リ之ヲ爲スヘ  
 シ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合  
 ハ此ノ限ニ在ラス  
 一 保險金(同一ノ保險ノ目的ニ付  
 數箇ノ保險契約存スルトキハ其ノ  
 合計額)一萬圓ヲ超ユル場合ニ於  
 テ一萬圓以下ノ部分及保險金一萬  
 圓以下ノ支拂ヲ爲ストキ  
 二 被保險者保險ノ目的ヲ修理シ又  
 ハ之ニ代ルヘキモノヲ取得スル等  
 特別ノ事情アル場合ニ於テ經濟部  
 大臣ノ許可ヲ受ケタル金額ノ支拂  
 ヲ爲ストキ  
 同一ノ保險ノ目的ニ付數箇ノ保險契  
 約存スル場合ニ於テ前項但書ノ規定  
 ニ依リ各保險會社ノ支拂ヲヘキ金額  
 ノ割合ニ依リ之ヲ定ム  
 第一項第二號ノ許可ヲ受ケントスル  
 被保險者ハ別表第二十八號様式ニ依  
 ル許可申請書正副二通ヲ滿洲中央銀  
 行ヲ經テ經濟部大臣ニ提出スヘシ

シトスルトキハ別表第二十七號様式  
 ニ依リ認可申請書正副二通ヲ滿洲中  
 央銀行ヲ經テ經濟部大臣ニ提出スヘ  
 シ  
 第十七條第三項ノ規定ハ前項ノ規定  
 ニ依リ會社法第五十八條第一項及  
 第二項ニ規定スル制限ヲ超ユル社債  
 募集ノ認可ヲ受ケタル會社其ノ社  
 債ヲ發行シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條ノ二左ノ各號ノ一ニ掲グ  
 ル者又ハ其ノ利害關係人ハ經濟部大  
 臣ノ定ムル代價額ノ百分ノ五ニ相  
 當スル額ノ國債ヲ取得シ又ハ預備金  
 ヲ爲スヘシ但シ地方關係及第二號ノ  
 金融機關ハ此ノ限ニ在ラス  
 一 土地又ハ建築物其ノ他ノ工作物  
 ヲ取得セラルレ又ハ讓渡シタル者  
 二 地上權、耕種權、典權又ハ土地  
 若ハ建築物ノ賃借權ヲ取得セラル  
 レ又ハ讓渡シタル者  
 三 典權ヲ設定シ又ハ典物ノ請戻ヲ  
 爲シタル者  
 第二十一條ノ三 經濟部大臣ハ左ノ各  
 號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ前條  
 ニ掲グル者ノ取得スヘキ國債又ハ預  
 入金ヘキ預備金額ノ全部又ハ一部ニ  
 付テ其ノ義務ヲ免除又ハ猶豫スルコト  
 ヲ得  
 一 時局ニ緊要ナル事業ヲ營ム者カ  
 其ノ取得シタル代價ヲ當該事業ノ  
 資金ニ充テントスルトキ  
 二 取得シタル代價ヲ以テ收用セラ  
 レ又ハ讓渡シタルモノニ代ルヘキ  
 モノヲ取得スル必要アルトキ  
 三 公用又ハ公共ノ用ニ供スル爲メ讓  
 渡シ其ノ代價ヲ取得シタルトキ  
 四 其ノ他經濟部大臣カ國債取得又  
 ハ預備金ヲ免除又ハ猶豫スルヲ適  
 當ト認ムルトキ  
 前項ノ免除又ハ猶豫ヲ受ケントスル  
 者ハ別表第二十九號様式ニ依リ申請正

第二十一條ノ二左ノ各號ノ一ニ掲グ  
 ル者又ハ其ノ利害關係人ハ經濟部大  
 臣ノ定ムル代價額ノ百分ノ五ニ相  
 當スル額ノ國債ヲ取得シ又ハ預備金  
 ヲ爲スヘシ但シ地方關係及第二號ノ  
 金融機關ハ此ノ限ニ在ラス  
 一 土地又ハ建築物其ノ他ノ工作物  
 ヲ取得セラルレ又ハ讓渡シタル者  
 二 地上權、耕種權、典權又ハ土地  
 若ハ建築物ノ賃借權ヲ取得セラル  
 レ又ハ讓渡シタル者  
 三 典權ヲ設定シ又ハ典物ノ請戻ヲ  
 爲シタル者  
 第二十一條ノ三(同上)

副二通ヲ滿洲中央銀行ヲ經テ經濟部大臣ニ提出スヘシ

第二十一條ノ四 本令ニ於テ利害關係人トハ左ノ各號ノ一ニ掲クル者ヲ謂フ

- 一 收用セラレタル土地、建築物其ノ他ノ工作物、地上權、耕種權又ハ典權ニ付抵押權ヲ有スル者ニシテ其ノ代價ヲ取得シタルモノ
- 二 第二十一條ノ二ノ各號ニ掲クル者ノ承繼人、債權者又ハ受贈者ニシテ其ノ代價ヲ取得シタルモノ

第二十一條ノ五 第二十一條ノ二ノ代價額ハ左ノ各號ニ依ル但シ利害關係人ニ付テハ其ノ取得シタル代價ノ額トス

- 一 土地、建築物若ハ典權ノ讓渡又ハ典權ノ設定ノ場合ハ不動産登記稅又ハ不動産登記稅ノ課稅標準額ノ課稅標準額ノ價格
- 二 典物ノ請戻ノ場合ハ典權設定ノ場合ノ不動産登記稅又ハ不動産登記稅ノ課稅標準額ノ價格
- 三 地上權、耕種權又ハ賃借權ノ讓渡ノ場合ハ登記官署又ハ登錄官署ノ評定價格
- 四 收用ノ場合ハ補償金額
- 五 前各號ノ規定ニ依ルコト能ハサルトキハ經濟部大臣ノ認定スル價格

第二十一條ノ六 第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ取得スヘキ國債ハ滿洲中央銀行ヨリ買入レ之ヲ登錄スルコトヲ

第二十一條ノ四 (同上)

第二十一條ノ五 (同上)

要ス

第二十一條ノ七 第二十一條又ハ第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ爲スヘキ預備金ハ左ノ各號ノ一ニ掲クルモノヲルコトヲ要ス

- 一 郵政局ハ預入スル據置預備金
- 二 銀行、興業金庫、興農合作社及商工金融合作社ハ預入スル定期預金

第二十一條ノ八 第二十一條又ハ第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ取得シタル國債又ハ爲シタル預備金ハ其ノ取得又ハ預入ノ日ヨリ三年間左ノ各號ニ掲タル處分ヲ爲スコトヲ得ス但シ經濟部大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一 國債又ハ預備金債權ヲ讓渡スルコト
- 二 預備金ノ拂戻ヲ受ケルコト
- 三 國債又ハ預備金債權ヲ擔保ニ供スルコト

第二十一條ノ九 第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ取得シタル國債前項ノ期間内ニ償還アリタルトキハ其ノ償還額ニ相當スル預備金ノ國債ヲ新ニ取得スルコトヲ要ス

第一項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ別表第三十一號様式ニ依リ許可申請書正副二通ヲ滿洲中央銀行ヲ經テ經濟部大臣ニ提出スヘシ

第二十一條ノ九 左ノ各號ニ該當スル者ハ其ノ支拂ヘキ代價ニシテ三年間以上ノモノニ付其代價支拂前ニ於

第二十一條ノ七 第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ爲スヘキ預備金ハ左ノ各號ノ一ニ掲クルモノナルヲ要ス

- 一 郵政局ハ預入スル據置預備金
- 二 滿洲興業銀行、興業金庫、興農合作社、商工金融合作社及銀行ハ預入スル定期預金

第二十一條ノ八 第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ取得シタル國債又ハ爲シタル預備金ハ其ノ取得又ハ預入ノ日ヨリ三年間左ノ各號ニ掲タル處分ヲ爲スコトヲ得ス但シ經濟部大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一 國債又ハ預備金債權ヲ讓渡スルコト
- 二 預備金ノ拂戻ヲ受ケルコト
- 三 國債又ハ預備金債權ヲ擔保ニ供スルコト

第二十一條ノ九 第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ取得シタル國債前項ノ期間内ニ償還アリタルトキハ其ノ償還額ニ相當スル預備金ノ國債ヲ新ニ取得スルコトヲ要ス

第一項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ別表第三十一號様式ニ依リ許可申請書正副二通ヲ滿洲中央銀行ヲ經テ經濟部大臣ニ提出スヘシ

第二十一條ノ九 (同上)

第二十一條ノ六 (同上)

行ヲ經テ經濟部大臣ニ提出スヘシ

第二十四條 經濟部大臣ハ本令ニ規定スルモノノ外關係者ニ對シ臨時資金統制法ニ依リ認可ニ關シ必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行後康德十一年十二月三十一日迄ニ於ケル換動資金ノ貸出ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル但シ此ノ場合ニ於テ流動資金ノ貸出ノ認可ノ効力ハ康德十二年三月三十一日迄トス

本令施行前流動資金ノ貸出ニ付經濟部大臣ノ爲シタル認可ハ本令ニ依リ流動資金貸出ノ認可ト看做ス但シ其ノ効力ハ康德十一年十二月三十一日迄トス

第二十四條 (同上)

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行後康德十一年十二月三十一日迄ニ於ケル換動資金ノ貸出ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル但シ此ノ場合ニ於テ流動資金ノ貸出ノ認可ノ効力ハ康德十二年三月三十一日迄トス

本令施行前流動資金ノ貸出ニ付經濟部大臣ノ爲シタル認可ハ本令ニ依リ流動資金貸出ノ認可ト看做ス但シ其ノ効力ハ康德十一年十二月三十一日迄トス

テ代價額確定後退還ナク別表第三十二號様式ニ依リ報告書ヲ最寄滿洲中央銀行ヲ經由シ經濟部大臣ニ提出スヘシ但シ地方團體又ハ第二條ノ金融機關ヲ相手方トシテ收用シ、讓受ケ設定ヲ受ケ又ハ請戻ヲ請求シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 土地又ハ建築物其ノ他ノ工作物ヲ收用シ又ハ讓受ケタル者
- 二 地上權、耕種權、典權又ハ土地若ハ建築物ノ賃借權ヲ收用シ又ハ讓受ケタル者
- 三 典權ノ設定ヲ受ケ又ハ典物ノ請戻ヲ請求シタル者

第二十一條ノ十 第二十一條ノ六及第二十一條ノ七ノ規定ニ依リ國債ノ賣却又ハ翌月十日迄ニ別表第三十三號様式ニ依リ報告書ヲ前條各號ニ掲タル者ノ住所地ノ最寄滿洲中央銀行ヲ經由シ經濟部大臣ニ提出スヘシ

第二十二條 資本金二十萬圓以上ノ會社ハ第一四半期開始前六十日第二三三及第四各四半期開始前二十日迄ニ別表第七號様式ニ依リ事業資金計畫書正副二通ヲ滿洲中央銀行ヲ經テ經濟部大臣ニ提出スヘシ

第二十二條ノ十 (同上)

第二十二條 金融機關三月、六月、九月及十二月ノ各月末現在ニ於テ一營業所又ハ一事務所ノ一人ニ對スル貸出合計額高三萬圓以上ニ及フ貸出先アルトキハ營業所又ハ事務所毎ニ取纏ノ翌月二十日迄ニ別表第二十八號様式ニ依リ報告書正副二通ヲ滿洲中央銀行ヲ經テ經濟部大臣ニ提出スヘシ

第二十三條 (同上)

第二十三條 資本金二十萬圓以上ノ會社ハ毎事業年度ノ決算確定後三十日以内ニ別表第二十九號様式ニ依リ決算確定報告書正副二通ヲ滿洲中央銀行





哈爾濱物價表 (康德十二年九月三十日現在) 大同二年一月一〇〇

Table of commodity prices in Harbin, organized by category (e.g., grains, oil, clothing, medicine) with columns for item name, unit, and price.

與農部大臣前項ノ規定ニ依リ... 康德十一年九月二十一日... 物價及物資統制法第十條ノ規定ニ基キ...

第八條 指定者ニ非ザレバ... 若ハ學術研究ノ用ニ供シ又...

第十四條 指定者ハ其ノ委任ヲ... 第十五條 指定者ハ其ノ委任ヲ...

第十六條 指定者ハ其ノ委任ヲ... 第十七條 與農部大臣ハ左ニ掲...

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之施行ス... 康德九年 經濟部第四十八號...

七、價格等臨時措置法指定業者... 物價及物資統制法第十條及第...